

工学部バス納車式

平成20年8月8日(金)に工学部バス納車式が行われました。このバスは工学部校友会・工学部学生会から頂いた寄付をもとに購入したもので、クラブ活動の試合・合宿や工場見学などの学生の課外活動支援を目的として使用されます。乗車定員51名。リクライニングシート導入。是非、ご利用ください。



東北建築学生賞を受賞

平成20年9月20日(土)に行われた社団法人日本建築家協会(JIA)東北支部主催第12回東北建築学生賞で、最優秀賞に建築学科3年早川真介さん、奨励賞みやぎ建設総合センター賞に建築学科4年美濃孝さんが選ばれました。最優秀賞の受賞は、昨年に引き続き、2年連続の快挙です。



学生食堂はE C O箸に切り替えました

平成20年10月より学生食堂の割り箸使用をやめ、E C O箸に切り替えました。ロハスに取り組む工学部では、購買部で箸の販売を行うなど「M y 箸」運動を推奨しています。



APA Award 2008受賞

平成20年11月2日(日)に、物質化学工学科齋藤烈教授が、3年に一度、光化学の分野において卓越した業績をあげた研究者に贈られるAPA Award 2008を受賞しました。アジアオセアニア光化学連合から贈られるこの賞は、日本人としては2人目の受賞で、前回受賞者にはノーベル賞受賞者も名前を連ねる世界的に栄誉ある賞です。



厚生労働大臣表彰

平成20年11月7日(金)に日比谷公会堂において平成20年度全国社会福祉大会が行われ、体育会が厚生労働大臣表彰をうけました。体育会が行ってきた多年にわたる歳末助け合い運動などの共同募金活動の功績が評価されての表彰となりました。



映画「櫻の園」撮影に協力しました

平成20年11月8日(土)から全国公開された、福田沙紀主演「櫻の園」には、本学部が撮影会場として協力しました。



環境大臣、本学部視察

平成20年11月8日(土)、斉藤鉄夫環境大臣が福島県を訪れ、環境保全・共生共同研究センターを視察しました。出村克宣学部長、土木工学科長林久夫教授が施設・研究内容などを紹介し、ロハスな取り組みについて説明しました。



新工学講座に高校生参加

平成20年11月8日(土)、昨年に引き続き「高校1・2年生のための新・工学講座」が行われました。参加者は、8講座の中から自分で選んだ2講座を通して、大学でどんな事を勉強するのかを体験しながら、工学を学ぶ面白さを実感していました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



第9回産・官・学連携フォーラム開催

平成20年11月19日(水)第9回産・官・学連携フォーラムを開催し、学生・市民・企業関係者など約300人の参加がありました。産官学が連携し、ものづくりによる地域活性化を目指して開催された今回のフォーラムでは、株式会社デンソー東日本代表取締役社長の森本有二氏による講演「デンソーのモノづくり」が行われました。



□人事

退職(定年) 総合教育 准教授 鈴木 詔悦 (平成20年9月1日付)	退職(物故) 情報工学科 教授 藤本 洋 (平成20年3月31日付)	異動(転入) 図書館事務課課長 参事 吉田 正裕 (異動元:日本大学理工学部) (平成20年10月1日付)	異動(転出) 日本大学法学部 参事 小田島 美通 (異動元:教務課) (平成20年10月1日付)	異動(所属変更) 就職指導課 主事 井上 娃子 (異動元:教務課) (平成20年11月1日付)	異動(転入) 管財課 主事 高田 イミ (異動元:学生課) (平成20年11月1日付)	異動(転出) 学生課 書記 間 友恵 (異動元:庶務課) (平成20年11月1日付)	異動(所属変更) 庶務課 書記 下重 紗弥佳 (異動元:管財課) (平成20年11月1日付)	異動(転入) 就職指導課 書記 矢代 家康 (異動元:管財課) (平成20年11月1日付)
--	--	--	---	--	--	---	---	--

学 事 平成20年度9月卒業学位記授与式		卒業者数				
10月15日(水)、平成20年度9月卒業者に対する学位記授与式が行われ、出村学部長から一人ひとりに学位記が手渡されました。	■土木工学科	3名	■建築学科	2名	■機械工学科	1名
	■電気電子工学科	2名	■情報工学科	1名		
	■土木工学専攻(前期課程)	1名	■電気電子工学専攻(後期課程)	1名		
					合計	11名

サークルイベント情報	モダンジャズ研究会	JAZZ RECITAL	12/14(日) 12:00~	ハットNE 3階 6231教室(大講堂)
	音楽研究会	クリスマスコンサート	12/20(土) 16:00~	Freeway JAM
	フォークソング同好会	クリスマスコンサート	12/23(火) 10:00~	ハットNE 3階 6231教室(大講堂)
	吹奏楽部	第35回定期演奏会	12/27(土) 17:30開場 18:00開演	郡山市民文化センター(中ホール)

工学部広報

No.224
2008.12.10



特集...1-4 第58回北桜祭 「Heart Warming」

クローズアップ工学部 燃えた!笑った!涙した!感動i・n・g...5-6
世界最大級のアンテナを見学
熱闘!学科対抗ソフトボール大会
北京オリンピックを体感
ーウェイトリフティングの解説者としてー

独りで悩まないで、みんなで解決!...7-8
学生生活悩みサポート

海外体験記...9-10
泣くほど感激!ケンブリッジ大学研修
世界観が変わる海外体験を

3年生が就職内定者に聞いた!...11-12
シューカツで夢をつかむにはー!?
卒業生に聞く!大学で何を学ぶか

LOHASな工学部Vol.7...13-14
「社会を動かす力」ーそれが土木工学

工学部だより...15

小島康洋さん
平成15年3月電気電子工学科卒業
2008年の「24時間テレビ「愛は地球を救う」(日本テレビ系列)の中で、実写ドラマ化された「みゅうの足」に出演した。著者(ペンネーム山口隼人)。
工学部の思い出や本の中でも語られている弱病生活での体験についてお話を伺いました。
(インタビューは工学部HPに掲載しています。)



第58回 北桜祭

Heart Warming

10月25日(土)・26日(日),日本大学工学部恒例の秋の祭典,「第58回北桜祭」が華々しく開催されました。のべ9,500人の方々にご参加いただき,大盛況のうちに幕を閉じた北桜祭。

今年は,「Heart Warming」というテーマを掲げ,昨年のテーマ「ツナガリズム」から,さらに関係を深めてもらおうと,さまざまなイベントが繰り広げられました。

※北桜祭の動画は,工学部HPのムービーギャラリーにて公開中



Heart Warming.01

“のぎく”と“桜”のコラボ

模擬店・教室展示に欠かせないのが,看板。いかにお客様を呼び込むことができるか,その顔となる看板にかかっています。今回,看板コンテストで,そのイケメンぶりを審査してくれたのは,福島学院大学「のぎく祭実行委員会」のスタッフでした。北桜祭実行委員が,のぎく祭「ポピュラーソングコンテスト」の審査員を務めたことから,交流が深まったといいます。初めての北桜祭に「規模が大きくてびっくりしました。」「新鮮な感じです。」と感想をもらしながら,「これから互いに活性化できるように協力できるといいですね。」と温かい言葉をくれました。賞をもらった学生たちからもお返しです。

「のぎく祭の看板娘さん,ありがとう!」



Heart Warming.02

天までとどけ!

北桜祭のイベントの中で,子どもから大人まで楽しみにしているのが,「餅つき」と「気球」。特にここ数年,悪天候のため飛ばなかった「気球」には,今年こそは,と多くの方から強い思いが寄せられていたようです。しかし,風が時折強く吹き,何度も膨らみかけては萎んでいく気球の様子を見ながら,「今年もダメか。」と漏れるため息。みんなが諦めかけたその時,上空に巨大なオレンジの物体が浮かびあがりました。あっという間に,気球の前には長蛇の列。「今年は気球に乗ることができてよかったです。空から見た風景は一生忘れません。」と感想をくれた人もいたほどです。きっと北桜祭のスタッフと地域の人たちの思いが一つになり,天に届いたのでしょう。



Heart Warming.03

“ものづくり”の魅力を 知った子どもたち

工学部生だけでなく,たくさんの皆様楽しんでいただける北桜祭にしたい。そこで今年企画されたのが,子どもたちが体験できる「昭和の遊び」でした。普段なかなか見ることのない竹トンボやゴム鉄砲などの玩具を,ボランティアで指導されている方に教えてもらいながら子どもたちに作ってもらおうというもの。最初は慣れない様子の子もたちも,お手製の玩具が完成すると大はしゃぎ。「こんなに楽しそうな顔は見たことがない。」と驚くご父母の姿もあり,参加いただいた方にはなかなか好評だったようです。子どもたちが「ものづくり」に興味を持つことは,工学の原点であり,子どもたちの好奇心の芽を育てていくことが,工学の未来にもつながっていくのだと思います。



Heart Warming.04

友を想う,北桜祭

表紙でもご紹介しました小島康洋さんには、取材をしながらの短い時間でしたが、北桜祭の雰囲気を楽しんでいただきました。模擬店に寄ったり、よさこいソーラン踊りを見たり、久々の北桜祭見物。ドラマを見て感動したという弓道部の模擬店からは、「家族の温かさっていいなと思いました。みゆうちゃんにあげてください。」と射的用のぬいぐるみをプレゼントされました。「ありがとう。」と照れながら、ぬいぐるみを受け取る小島さん。でも、少し複雑な心境でもありました。「友人がいないキャンパスは不思議な感じですね。僕は付属高校出身ではないので、入学した時は誰一人知り合いがいませんでした。そして徐々に知り合いが増え、最終的にはかなりの友人ができました。でも、また友人がキャンパスに一人もいなくなり、確実に時は流れているんだと感じました。」キャンパス内にはいないけれど、キャンパスを離れた今も、学生時代の友人とは固い絆で結ばれています。本を出版した時には、一緒に普及活動を手伝ってくれたそうです。「嬉しかったですね。」泣いたり、笑ったり、同じ時間を過ごした仲間との友情は冷めることなく、いまもなお、温かく続いているのです。



Heart Warming.05

ありがとうの輪を広げよう！

モダンジャズ研究会の演奏会では、最後に部員だけでなく、一般の方々も参加できるセッションが行われます。何も決めず、アドリブで演奏していくのです。「知らない者同士、互いの目や表情を見て、次はこうしようって進めていくんです。思った通りにできた時は、最高に感動しますね。」感動的な演奏に、もっと感動してくれた人がいました。35年前に卒業した先輩です。時は過ぎ、キャンパスには知っている人もいない。そんな卒業生が、北桜祭に来て驚いたこと。「ジャズのサークルがあるじゃないか！」当時、モダンジャズ研究会は10人ほどのサークル。それが、40人の大所帯となっていたこと、さらには自分たちが目指していたことが、ずっと変わらずに引き継がれていたことに、その卒業生は感動したと言います。「先輩から“ありがとう”って感謝されて、すごく嬉しかったです。」と後輩たちも満面の笑みを浮かべていました。

「ありがとう」を漢字で書くこと…「有難う」。有ることが難しい、だから、あったら「有難い」と感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と言う。「有難い」と思った人は、とても幸運であり、「有難い」ことをした人は、HEROみたいで、とても嬉しい気持ちになれる。そんな「ありがとう」を真ん中にして、お互いが支えあえる関係でいられたら素敵だと思います。北桜祭で結ばれた「Heart Warming」な関係が、ずっと続いていくことを願っています。

この場をお借りしまして、来場者の皆様、熱いライブを見せてくれた加藤ミリヤさん、北桜祭開催にあたり多大なるご尽力いただきました関係者の皆様、取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



Heart Warming.番外編 感謝の心を形に

北桜祭実行委員会では、北桜祭でのバザー収益金(27,200円)を郡山市社会福祉協議会に寄付しました。中島敏真委員長とバザー部門の渡邊健部長は、同協議会を訪問し、「バザーの収益金は、北桜祭を楽しんでいただいた皆さんの気持ち。その気持ちに感謝して、自分たちにできることを形にしました。社会福祉に少しでも役に立ててもらえれば嬉しいです。」と語っていました。



母校を訪ねる会で賑わう卒業生！

北桜祭では、毎年、卒業後50年目・40年目・30年目・20年目の方々を対象に「母校を訪ねる会」を開催しています。今年も10月26日(日)、総勢196名の卒業生が、元気な姿を見せてくれました。

記念撮影の後、懇親会が催され、久しぶりに会う旧友たちと昔話に花を咲かせていました。

卒業生の声

- 先生方の面倒見がよいというのが魅力でした。これからも、日本の技術力を継承できる人材育成に力を注いでほしいですね。
- 理論だけでなく、ものづくりに深く関わることができ、それが社会に出てからも活かされています。後輩たちにも、自分の好きなことに一生懸命取り組んでほしいと思います。
- 郡山は自然に恵まれているところが魅力。社会に出てから感じるのは、やはり日大生が多いことです。脈々と引き継がれていく先輩・後輩の絆がありますね。
- 私にとって工学部は第二の故郷です。20年ぶりに工学部に来て、大学生生活の4年間は人生の宝物だと実感しました。



Heart Warming.卒業生編 娘たちも同窓生

26回生の卒業生。当時、5人の女子学生しかいなかった工業化学科(現:物質化学工学科)ですが、何ん自由なく大学生活を過ごせたそうです。「自分たちにとってよい大学だったので、娘たちにも学ばせたい。」そんな思いから、ご息女たちも通わせたとのこと。父と息子が同窓生というのも多いのですが、実は母と娘が同窓生というケースも珍しくないのです。魅力を知っている卒業生だからこそ、子を思う親心が伝わってきます。



研究施設にご父母も感動！

10月25日(土)の北桜祭には、父母会宮城支部の方々が訪れ、学務担当の西出利一教授の案内で、次世代工学技術研究センターを見学されました。病院の手術室のような実験室やナノテクノロジーを駆使した分析センターなど、最先端の工学の世界に触れながら、初めて見る研究施設のすごさに感動されていました。

ご父母の声

- 工学の分野はものづくりだけではなく、幅が広い。医療分野の技術開発など発展性がありますね。
- 土木関係の会社には、日大の卒業生が数多くいるということで、ここを選びました。
- サークルの先輩にもよく面倒をみてもらい、大学生活をエンジョイしているようです。
- 施設を見学して、あらためて素晴らしい大学だなと思いました。
- ひとり暮らしをさせているので、学食が安くてボリュームがあって充実しているのはありがたいですね。
- 父母会というものが、他の大学にはあまりないので、親同士もコミュニケーションがとれて安心できます。



Heart Warming.ご父母編 親同士の縁で見つけた下宿

入試の時に、宮城県と秋田県から付き添ってきた受験生の親御さん同士が意気投合。一緒にアパート探しをしていたところ、道で声をかけた人から「良い物件ありますよ。」と教えてもらい、即決定。実はその方、下宿の大家さんだったのです。今、ご子息たちの住むその下宿は、仲間たちの憩い場になっていて、なんとも楽しい学生生活を送っているとのこと。

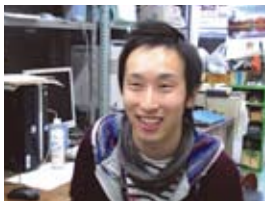
世界最大級のアンテナを見学

電気電子工学科長澤研究室では、同じくアンテナ工学を研究する日本大学理工学部三枝研究室、生産工学部坂口研究室と3学部合同研究会を結成し、毎年夏休みに研修を行っています。

今年は、8月7日(木)・8日(金)の2日間、月周回探査衛星「かぐや」に搭載されたハイビジョンカメラを製作した、明星電気株式会社の本社工場と宇宙航空研究開発機構の臼田宇宙空間観測所を見学しました。

幹事役の電気電子工学科4年、高世 諒太さんに研修の様子をリポートしていただきました。

人生の師!!



今回、3学部合同研究会の工学部幹事役を務めました。理工学部の幹事とメールで打ち合せしながら、研修場所や参加人数、参加費などを決めていき、いよいよ当日を迎えました。しかし、幹事として最悪の事態が勃発!

寝坊して出発時間に遅れてしまったのです。青ざめながらも急いで用意し、東京に向かう新幹線の中では、「もう研究室には行けない。」と落ち込んでいました。そんなダメ幹事を指導教員の長澤先生は「よく来たね。」と温かく迎えてくれました。今では先生の懐の深さに感動し、「人生の師」と仰いでおります。

電気通信機器の未来に触れる

まず1日目は、3研究室が新宿に集結し、私を除く他全員は、群馬県伊勢崎町にある明星電気の工場に向かいました。明星電気には、数多くの卒業生がおり、工場の案内や月面探査機かぐやの説明だけでなく、「授業で学ぶ知識や技術が、直接現場で活かせるので、皆さん、まじめに勉強して下さいね。」と激励もいただき感謝感激!

明星電気は、宇宙関連の製品のほか、地震や防災などの製品開発にも貢献していて、大学にはない最先端の設備や高性能な機械を見学しながら魅力的な会社だと思いました。

名前が有名な大手企業ばかりを見るのではなく、会社の中身を詳しく知ることが大切だということがわかり、就職先決定の参考になりました。

まるで部活の合宿のようだ!

夜は長野県野辺山の民宿に宿泊。懇親会では3学部の垣根を越えて、まるで部活の合宿のように盛り上がりしました。

研究会のまとめ役で、宇宙ロケットのアンテナを開発した理工学部の長谷部望先生、案内役として参加した宇宙工学の高野忠先生、そして3学部の研究室の先生方も、とても気さくで、時間を忘れるほど楽しい夜でした。



直径64mの大きさに圧倒!

2日目は、世界最大級のアンテナがある長野県の臼田宇宙空間観測所へ。着いてまず、その大きさに一同驚きました。アンテナの足に登ってみました。その迫力に圧倒! さらに、アンテナの設計から着工までを撮影したビデオを観て、山の上までアンテナを運んだクレーンの大きさに、スケールのすごさを実感させられました。アンテナの仕組みをパネル解説した展示棟も見学し、アンテナの魅力に胸躍らせた一日でした。

明星電気の見学では、進路について卒業生からアドバイスをもらい、臼田宇宙空間観測所では総重量1,980トンの世界最大級の大形アンテナを実際に見ることができ、有意義な研修でした。特に懇親会では、学部同士の交流を深めながら、工学部とは違う学生の考え方や状況などを知ることができたのは大きな収穫でした。でも、自分にとって今回の教訓は「集団行動では、時間を守ろう!」ということです。

研修先でお世話になった方々、長澤先生、研究室の皆さん、ありがとうございました。



熱闘! 学科対抗ソフトボール大会

秋晴れの10月27日(月)。グラウンドには各学科の予選を勝ち抜いた6チームと腕に覚えのある教職員チームが集い、学科対抗ソフトボール大会が開催されました。激戦を制したのは、土木工学科コンクリート工学研究室。情報工学科応用画像処理研究室との決勝戦、4回裏に一挙11点をたたき出し大逆転して見事優勝!!「岩城先生、子田先生から、出るからには勝ってこいと言われていたので頑張りました!」「普段からみんな仲がよいので、そのチームワークが結果につながったのだと思います。」大会委員長の佐藤晴夫先生から、優勝賞品を手渡され、歓喜に沸く面々。卒業研究の合間のリフレッシュになったようです。



北京オリンピックを体感 ーウェイトリフティング解説者としてー

ウェイトリフティング女子48kg級の解説を担当された、総合教育の菊地俊美先生に北京オリンピックやウェイトリフティングについてお話を伺いました。

菊地先生は、高校1年からウェイトリフティングを始め、大学・社会人時代は選手として活躍。引退後、日本大学のコーチ・監督を経て、現在は日本協会の選手強化委員を務めています。

ー北京オリンピックを振り返ってみて、いかがでしたか?

とても完成度の高い大会でしたね。管理体制がしっかりしていて運営も問題なかったし、各競技会場も立派でした。国の威信をかけて臨んでいたという感じでしたね。また、メディアの数も多く、どの会場も観客で埋め尽くされていて、非常に盛り上がっていました。

ーウェイトリフティングは、メダルには手が届きませんでしたか…

可能性は十分にあったと思います。特に私が解説を担当した女子48kg級の三宅宏美選手は、世界から見ても高い技術力を持っています。ただ、いかに当日、体調やメンタルを調整できるかが勝負の鍵を握ってきます。オリンピックという舞台では、100%かそれ以上の力を出せなければ、メダルを取ることはできないのです。女子は3人出場し、すべて8位入賞を果たしましたし、男子も自己記録を更新した選手もいますので、全体としてはよかったと思います。

ーウェイトリフティングは歴史のあるスポーツですね。

1896年の近代オリンピック第1回アテネ大会から、取り入れられた競技です。ヨーロッパでは、ウェイトリフティングで勝った者は英雄として崇められるほど、評価の高いスポーツです。だからこそ、力の入れ方が違いますし、日本としても次の大会に向けて強化していかなければなりません。



ー菊地先生は、ウェイトリフティングの大会委員長もされていますが…

中学・高校・一般等、日本協会が主催するすべての大会の運営責任者として、週末はほとんどの大会に出動しています。(笑)選手強化委員でもありますから、指導者として、また解説者として、さまざまな角度から関わりながら、これからもウェイトリフティングの発展のために、貢献していきたいと思っています。



ー大学では学生たちに何を教えていますか。

トレーニング関係の体育・スポーツと健康・スポーツ概論です。ウェイトリフティングの基本形を教えながら、腰を痛めない方法や楽で一番力を出せる型など、日常生活にも活かせる体の使い方を伝授しています。学生のうちから体を鍛え、習慣づけておけば、筋力が落ちることもなく、年をとっても元気でいられます。体育館には学生が自由に使えるトレーニングルームもありますし、依頼があれば私も指導しますので、ぜひ活用してほしいですね。



独りで悩まないで、みんなで解決！

学生生活悩みサポート



大学生活では、嬉しいことや楽しいことだけでなく、嫌なこと、つらいことなど悩みもつきものです。家族や友だちに相談したり、自分自身で解決できればよいのですが、「なかなか人には話せない」「誰に相談してよいかわからない」など、解決の糸口を見いだせず、悩みを抱えたまま過ごしている人もいないでしょうか。本学部では、より充実した学生生活を送るために、「手助け」となるさまざまな相談窓口があります。悩みや問題・疑問に応じて、対応する窓口気軽に相談してみてください。

こんなことで悩んでいませんか？

人間関係や自分自身についての悩み

- ・人との付き合いがうまくいかない。人とうまく話せない。
- ・人から自分がどう見られているか、気になってしかたない。
- ・友だちから、いじめの対象にされている。
- ・心を許せる友人がいない。
- ・研究室の指導教員と合わない。
- ・親が関わりすぎて、うつとうしく感じる。
- ・親と意見が合わず、すぐケンカになる。
- ・人前に出るのが苦手。

心の悩みを打ち明けたいとき

学生相談室

学生生活を送っていく中で、修学上の問題や対人関係のこと、家庭・就職の問題、自分の性格のことなど、自分一人では対処しきれないときや誰かに聞いてほしいときなどに、皆さんの手助けをするのが学生相談室です。専門のカウンセラーが、皆さんの悩みについて、どうすれば解決できるかを一緒に考えていきます。プライバシーは固く守られますので、安心して利用してください。



週3日(月・火・木曜日)私たちが来校し、お話を聞いています。電話や手紙での申込でも大丈夫。気軽に相談ください。



横山カウンセラー



目黒カウンセラー



学生相談室 横山さん

受付には、私がいいます。誰かに悩みを聞いてほしい、こんな悩みでも聞いてもらえるのかなというとき、遠慮なく立ち寄ってみてください。

健康上の悩み



- ・最近なかなか寝つけない。
- ・慢性的な頭痛がある。
- ・食欲がない。体重が減った。
- ・胃が痛い。腹痛がある。
- ・気持ち悪くなる。吐き気がする。
- ・過呼吸で苦しくなるときがある。
- ・体がだるく、朝起きられず授業に出られない。
- ・何ごとにもやる気が起きない。
- ・何かよくわからない不安を常に感じてしまう。

健康に不安があるとき

保健室

体の不調や不安があるときは、保健室を訪ねてください。心の病いが体に出ることも多いようです。無理をせず、健康面で気になることがあれば、何でも保健室にご相談ください。軽い疾病や負傷などの応急手当てのほか、病状によって該当する医療機関を紹介しています。また、校医による健康相談(無料)も行っています。

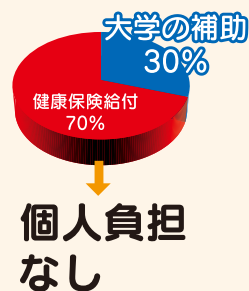
どうしてよいかわからないときの“駆け込み寺”みたいなところ。心と体の応急手当てならお任せください。



保健室 渡邊さん・高橋さん

医療割引制度もあります。

本学部では、在学生の経済的負担を軽くし、学業達成のための障害を取り除くことを目的に、本学部指定の病院における在学中の疾病について一定の補助を行っています。



生活全般の悩み



- ・宗教に誘われて困っている。
- ・親が失業して、学費が払えない。
- ・強引な新聞の勧誘を断れず、契約してしまった。
- ・マルチ商法にひっかかって商品を購入してしまった。

相談の総合窓口

学生課

学生生活全般、どこに相談してよいかわからないとき、何か悩みがあるときは学生課にご相談ください。奨学金や病院、アルバイトの紹介や、サークルに関する相談などにも対応していますので、質問・疑問の総合窓口として利用してください。



時には優しく、時には厳しく、兄貴・姉貴のような私たち職員が相談にのります！気軽に声をかけてください。

学生課 間さん

奨学金の相談も

経済的理由や家計を支えている方が、失職・倒産・病気等により家計が急変し、修学が困難な学生には、さまざまな奨学金制度の支援があります。緊急・応急で推薦することもできますので、学生課に相談してください。

ご父母の相談にも

クラス担任

各学科・学年を2クラスに分け、それぞれ担任を設けて、クラス担任と他教職員が連携を取りながら助言・支援を行っています。学生の履修の指導や成績管理などの学業に関することや、生活相談・生活指導を行うとともに、ご父母の相談にも応じています。

新入生の味方

助言教員

1年生を対象に、大学生生活全般の悩みについて相談したり、考える姿勢や方法を身につけられるように、総合教育の担当教員による「助言教員制」を設けています。クラス担任のほかに、数名の総合教育教員が配置されており、それぞれの研究室に直接相談に行くこともできます。※各研究室はオリエンテーションで配付した「あすにはばたく」を参照してください。

人権侵害を受けたら

日本大学人権救済委員会

セクシュアル・ハラスメント等の人権侵害の発生を防止するとともに、人権侵害に関する救済や問題解決を適正・迅速に実施し、学生・生徒及び教職員が、公正で安全かつ快適に学び、教育研究を行い、働くことができる良好な就学・就業環境を維持向上するために、日本大学では人権救済委員会を設けています。

※詳細については、学生課の窓口前に置いてあるパンフレットを参照してください。



銀行提携教育ローンもあります。

本学部では、入学予定者・在学生の経済的負担の軽減を目的として、東邦銀行との「提携教育ローン」により、入学金や授業料、在学中のアパート代などの教育資金を低金利で融資を受けることが可能です。

学業の悩み

- ・志望の大学ではなかったため、大学生活が面白くない。
- ・授業がわからない。難しくついていけない。
- ・研究がうまくいかない。
- ・単位が足りなくて、留年しそうだ。
- ・思っていた学科ではなかった。違う学科に移りたい。

学業の悩みなら

教務課

履修や授業、成績などに関する業務や転科・休学などの手続きを行っているのが教務課です。学業に関する悩みについての相談にも応じていますので、気軽に窓口にお越しください。



大学生活でもっとも大事な学業のことだから、あきらめないで、相談してください。一緒によい方法を考えましょう！



教務課 渡邊さん

進路・就職

- ・こんな自分では就職できないのではないかと不安になる。
- ・自分がどんな仕事に適しているのか、自分ではわからない。
- ・就職活動がうまくいかない。
- ・内定をもらったが、自分の希望する会社ではない。
- ・大学院に進むか、就職するか悩んでいる。

就職の悩みには

就職指導課・就職指導委員

就職やインターンシップに関する相談には、就職指導課が対応しています。就職活動の進め方や履歴書・エントリーシートの添削も行っています。また、各学科2名の就職指導委員も相談に応じています。工学部ホームページの就職・進路→「お問い合わせ」でご確認ください。

誰でも自分の進路について悩んだり、壁にぶち当たるもの。ここには、君たちの悩みを解決する鍵があるかもしれない。ぜひ訪ねてみてください。



就職指導課 村上さん



思いは遥かイギリスへ

——語学研修を希望したきっかけは何ですか。

高橋 川崎先生の授業で「こんな語学研修があるぞ」と紹介されたのがきっかけです。個人的に興味を持ち、授業が終わったあと、詳しい話を聞きに行きました。先生自身、ウェールズ大学大学院の出身だということを知り、自分も海外で学んでみたいという思いがますます高まりましたね。

山川 僕の場合は前から留学を考えていて、「日本大学主催ではどんな留学先があるんだろう」と、自分なりに探していました。そんな中、川崎先生から、留学経験の話を聞いたことは参考になりました。

小林(新) 僕の場合は、ほとんどノリでした。(笑)ここにいる友人の小林(直)君が「とにかく行きたい!」というので、「じゃあ、行こう!!」ということになり、一緒に申し込みをしました。

小林(直) 語学研修のポスターを見たとき、「これはおもしろそうだ!」と思ったんです。海外旅行はウワベだけですが、研修という形だったら何週間も続けて滞在できるので、そこに大きな魅力を感じました。



海外で学ぶ喜びを発見

——研修先では、どんなことを学びましたか。



山川 僕が参加したのは、S L (スペシャルレクチャー) コースといって、具体的な科目を選ぶコースです。僕は「経済」と「社会」を選択しました。もちろん授業はすべて英語なので、正直難しかったですけれどね。「経済」では、もっぱら株式の市場原理について学び、ファンドの判断基準を計算したりしました。日本だと経済史とか学ぶんでしょうけど、向こうでは実践的な学びが多いような気がします。英語というよりも「数字」を通じて、どうにか理解できたという感じですね。

高橋 僕もS L コースで、「フィルムメイキング」と「サイエンス」という科目を選択しました。「フィルムメイキング」では、「サマースクールの紹介」をテーマに、実際にみんなで映画をつくりました。演技も自分たちでやらなくちゃいけなかったので必死でしたよ。おかげで表現力も学べましたけれどね。

小林(直) 僕はE L (イングリッシュランゲージ) コースだったので、語学がメインでした。フィールドワークといって、グループで街に繰り出し、身近なことを英語でインタビューするんですよ。最初は緊張してよくわからなかったけど、だんだん慣れてきて意思の疎通が図れるようになったのは不思議です。

小林(新) フィールドワークは視野が広がりましたね。買い物帰りのおばさんとかサラリーマンとか、いろいろな人と出会えて、イギリスの生活や文化など、さまざまな面に触れることができました。



山川 授業の一環で図書館前の銅像のアイデアを出したら、クラスで一番になり、ステキな賞品をいただいたのも良い思い出です。



TAのおもてなしに感激!

——研修先での日常生活はどうでしたか。

小林(新) カレッジも広くて、公園ではよくサッカーをして遊びました。学内にはパブもあったので、みんなで遊びに行きました。

山川 カレッジ内の施設も至れり尽せりでしたね。図書館やジム、コンピュータ室まで揃っているのは正直びっくりしました。

小林(直) ふだんの食事も良かったけど、さすがに後半は日本食が恋しくなりました。味噌汁が夢にまで出てきましたからね。

小林(新) 3週間の研修で、フライドポテトは1年分ぐらい食べたような気がします。(笑)

高橋 パント(運河を渡る小舟)も楽しかったですね。小舟を漕いでいる人の衣装も格好良かったし。

小林(新) 僕はプロサッカーに魅了されました。プレミアリーグを観に行ったときは感激まくりでした。

山川 ケンブリッジ大学のT A (ティーチングアシスタント)のみんなには感謝感激です。研修中は、ずっと親身になって僕らを支えてくれましたからね。一緒に遊びに行ったりして、ほとんど友達のような感覚で付き合えました。自分の英語が堪能で、彼らと対等に話せたら、もっともっと楽しかったでしょうね。

小林(新) それは僕も痛感しました。家族や趣味のことなど、いろいろ話はしたものの、英語がうまく使えなくて、自分の気持ちが伝えきれないという、もどかしさはありましたね。最後に彼らと別れるときは、涙が止まりませんでしたよ。

小林(直) フェアウェルパーティー(お別れパーティー)は感動的でした。

高橋 泣けてきましたよね、最後は…。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験を活かして、新たな可能性にチャレンジ

——語学研修前と後では、自分の中でどんな変化がありましたか。

高橋 ケンブリッジは大学の街なので、おのずと気持ちも引き締まり、「よしっ、勉強するぞ!」という思いに駆られました。研修後も英語の勉強には燃えていますよ。

山川 僕も課外英会話講座に参加しながら、英語の勉強を続けています。自宅ではB S のワールドニュースをよく見ていますが、キャスターが何を喋っているのか、以前よりもわかるようになりましたね。

小林(新) 映画も字幕なしでわかるようになってきました。個人的にはTOEICにもチャレンジしたいですね。

小林(直) 僕はFE※にチャレンジするつもりです。せっかくなので、将来は英語をもっと活かせるような仕事に就きたいですね。とにかく研修後は、英語に対する違和感が完全になりました。

——日本大学の他学部との交流はどうでしたか。

小林(新) 他の学部の学生とつながりが持てるようになったことは、自分にとって大きな財産になりました。もうすぐ就職活動も始まるので、今後もぜひ連絡を取り合いながら、コミュニケーションを深められればと思っています。

山川 日頃あまり接点のない文系学部の学生が多かっただけに、このつながりは大切にしたいですね。

高橋 学部の枠を超えた新たなネットワークができました。それも今回の研修の「副産物」の一つだと思います。

小林(直) 海外研修という貴重な経験を活かしながら、これからもGo ahead!前進あるのみです。

※FEとは、技術分野での国際的職能資格である米国のPE資格の一次試験。本学部では国際工学コースを設けて、FE試験の内容に対応した教育プログラムを実践しています。



世界観が変わる海外体験を 総合教育 専任講師 川崎 和基

私が、大学を卒業してイギリスを旅行した時、最初に衝撃を受けたのは2階建てバスでした。驚きました。さらに衝撃的な出来事は、通りを一緒に探してくれた親切なホームレスとの出会い。ホームレスとは知らず、住んでいる所を聞くと返ってきた言葉が「Under the sky!」。感動しました!こんなことをきっかけにして、ウェールズ大学大学院に留学することになったのです。また、そこでは人生が変わる出会いに遭遇。同じ寮に住んでいたタイの留学生と親しくなり、10年越しの思いを实らせて、今年晴れて結婚しました。こうした話も海外留学では珍しくありません。海外を経験することで、世界観が大きく変わります。日本という国、日本人が海外でどう見られているのか、また、自分に足りないもの、何をしなければならないかということがわかってきます。日本大学にはケンブリッジ大学やエリザベスタウンカレッジとの提携による、他の大学にない語学研修を体験することができます。感性が研ぎ澄まされている学生のうちに、このチャンスを活かして、世界を知る、自分を知る、そんな貴重な海外研修をぜひ体験してください。





3年生が就職内定者に聞いた！ シューカツで夢をつかむにはー!?

いよいよ本格的な就活シーズン。3年生を代表して、機械工学科の阿部瑞也さんが、希望する企業や官公庁に内定した工学部の先輩たち(6名)に、就活に関することや進路の悩みについて相談しました。

■林泰生さん <土木工学専攻> 国土交通省関東地方整備局に内定。	■宮下英子さん <建築学専攻> 株式会社大林組に内定。	■高畑功一郎さん <機械工学科> 東京電力株式会社に内定。	■中川亮さん <電気電子工学専攻> 富士重工株式会社に内定。	■河村一徳さん <物質化学工学科> ユニ・チャーム株式会社に内定。	■飛内拓弥さん <情報工学専攻> 株式会社NTTデータに内定。
---	--	--	---	--	--

大切にしたい、人との出会い

阿部 今度は僕ら3年生が主役の就活シーズン。まず先輩たちが内定先の企業や官公庁を選んだ決め手について教えてください。



河村 自分の考えにマッチしていて、共感できたところかな。4月上旬までには決めようと、自分の中で期限を設けていたことが、早めの内定につながったと思う。

中川 僕の場合は地元というのが大きかった。卒業研究ではマイクロコンピュータの研究をしていたので、めざすなら自動車関係と決めていたのもあるけど。

高畑 僕は電力関連。高校時代から自然エネルギーに憧れていたんで、電力会社一本にしぼったね。

飛内 僕も情報系の知識が活かせる会社へ行こうと最初から決めていた。偶然リクルーターの方が研究室の先生の後輩でもあったので、とても良い感触だったよ。

宮下 私もフィーリングというか、会社の



人あたりの良さを肌で感じとれたのが大きかったかな。リクルーターの方も親切で「ここでならずっと働いていける」と確信できたし。

林 僕は公務員志望だったけど、飛内さんや宮下さんがいうように、人との出会いは感じたね。国と県から内定をいただき迷っていたとき、国交省の担当者が親身になってアドバイスしてくれて、こんな人のいるところで働きたいと国を選んだよ。

数多く回ることも必要

阿部 就活ではどんな心がけが必要ですか。
河村 就活は人生のもっとも大きな指標を決める時期。自分と向き合うチャンスでもあるので、「自分はどんな人間だろう」「将来はこんな風になりたい」と思い描きながら、ベストを尽くしてほしいね。嘘をつかないことも大切な。嘘をついて入っても、うまくいくはずがないからね。



飛内 一人で就活しないこともポイントだろうね。周りの人はライバルではなく、むしろ“同士”だと思って、どんどん相談するのが良いと思う。もちろん先生にも相談すること。

宮下 何ごとも中途半端ではダメ。自分なりの目標をしっかりと持ち、悩みを強みに変えるぐらいの気迫で臨んでほしい。

林 目標は必要だね。選択肢もギリギリまで捨てずに、ちよつとでも興味があったら、積極的に説明会に参加し、選択の幅を広げることだね。

中川 実際に担当者に会ってみないとわからないので、できるだけ多く回る努力は必要だと思う。

河村 僕の場合、30社以上は受けたかな。本命はしぼり込むにしても、ある程度、数で勝負することは必要かも。

中川 就職は結婚と同じ。たとえ決まらなくても、実力がなかったからでなく、相性が悪かったからと思って、すぐに気持ちを切り換えることかな。面接が2、3日続くこともあり得るしね、くよくよなんかしてられない。

高畑 そうそう。明るく、いつも笑いながら、元気に就活に励むこと。それが一番だね。

河村 文系の企業を受けてみるのも勉強になると思うな。文系の学生は面接の猛者なので、参考になる部分は多いと思う。

中川 面接では「これをやりたい」という希望動機ではなく、「これができる」という志望動機を話してほしいね。

阿部 なるほど。ところで公務員試験で合格するには、かなりの勉強が必要なんだろうね。



林 高校時代は野球部にいて、部活を引退してから数ヶ月間、受験勉強に集中して大学に合格したんだ。そのときの経験が生きているかな。公務員試験の勉強で大切なのも集中力。諦めずに頑張りぬいたことが好結果につながったんだと思う。



どんな学びもつながっている

阿部 僕は機械工学科なんですけど、インターンシップやアルバイトを通じて、いろいろな経験をしているうちに、医療系もいいとか、生物や農業もやってみたいとか、進路のことであれこれ迷いが生じてきました。そんなぐらついた気持ちに打ち克つためには、どうすれば良いと思いますか。ぜひアドバイスをお願いします。

中川 機械工学科なら医療機器の研究も

やれるじゃない？のめり込んでやってみたらいいのに。

飛内 工学は医療も支えているからね。それはグッドアイデアだと思うな。

阿部 例えば製図とかをやっているけど、なかなかモチベーションが上がらなくて…。ひょつとして分野が違うのかなとまで思ってしまうんです。

高畑 酷なことをいうようだけど、製図でめけているようでは、どの分野にも打ち込めないと思う。大学では何を学んだかも大切だけど、それ以上に4年間という時間をどう過ごしたか、つまり質が重要だと思うよ。

河村 興味がなければやらないという考えは捨てるべきだと思う。どんな勉強でもすべてつ

ながっている、間接的に役に立つ。そう考えて授業に出ると、やる気も変わってくるはず。学問を通じて「考える」こと自体が、社会に出るためのトレーニングになるわけだしさ。

林 僕も学部生の頃、建設業界から内定をもらったのはいいけど、公務員への夢が捨てきれず、もう一度大学院でやってみようと思っ



……卒業生に聞く！大学で何を学ぶか……



株式会社大京勤務
岡田 博美さん
建築学科 平成18年度卒

有意義な大学時代が心の財産になる

建築の仕事、それも設計や施工を行うだけでなく、直接お客様の声が聞ける仕事に携わりたいと思い、この会社を選びました。現在の仕事は、新築マンションの営業。建築の基礎をしっかりと身につけてきたことは、日常の業務の中でも活かされています。あるお客様から「岡田さんが担当だったので買ったんですよ」といわれたときは、さすがに嬉しかったですね。

在学中、ケンブリッジ大学のサマースクールに参加できたことは最高の思い出であり、最大の収穫でした。とにかく4年間、後悔だけはしたくないという気持ちで、自分なりに計画を立てて過ごせたのは良かったと思います。大学時代が有意義だと、かけがえのない心の財産になります。ぜひ時間の使い方を工夫して、悔いのない学生生活を送ってほしいですね。



株式会社ジェイアール東日本情報システム勤務
(東日本旅客鉄道株式会社出向)
柴田 徹さん
情報工学科 平成12年度卒

人との語らいによって感性が磨かれる

自分の創ったシステムを交通インフラの基盤にできればいいと思い、現在の会社に入社しました。今は東日本旅客鉄道株式会社に出向し、鉄道設備の維持管理をサポートするシステムづくりに携わっています。工学部で学んだ情報処理に関する知識はもちろん、他の学科の友人たちから得た幅広い知識が日常業務の中では役立っています。

大学時代、北桜祭の実行委員を務めたことや、卒業研究の打ち上げで盛り上がったことは、忘れることのできない思い出です。社会に出て仕事をするうえでは、数字やモノと語り合うよりも、人とのコミュニケーションを図ることが大切です。大学では、できるだけふだんと異なる世界に飛び込み、いろいろな人とふれ合いながら、自分自身の感性に磨きをかけてください。

たしね。
宮下 私も学部生のとき、一度は就職しようと思ったけど、社会への不安や留学したいという思いもあって大学院へ進んだの。

飛内 まず自分の目標を明確にすることが大切だね。

宮下 そう、まずは具体的な目標を掲げて、中途半端な気持ちを払拭することだと思う。

高畑 チャレンジ精神を持ち続けてほしいな。僕自身、英会話の勉強にチャレンジして、「よし、やるぞ!」という気になったからね。

河村 機械工学科の勉強をやり遂げて、ちゃんと卒業してから、新たなことにチャレンジするのもありだと思う。今度は親に迷惑をかけず、何もかも自分の力でやってみては——。夢というのは、苦しまなければ叶わないよ。

阿部 そうですね。確固たる自分というものを持ちながらも、周りの人の意見をよく聞いて、それらを柔軟に受け入れていく姿勢も大切ですよ。先輩たちのアドバイスを胸に、明るく前向きに頑張ります!!今日は本当にどうもありがとうございました。



アイオワ州立大学客員研究員・PD(ポストドクター)
大山 勝徳さん
情報工学専攻 平成18年度修了

思ったことはやり抜く

大学院で博士号(ドクター)を取得したあと、アメリカのアイオワ州立大学でソフトウェア工学の研究を続けています。大学内の研究室で2人に1人は留学生という環境の中、現在では研究活動を進めるうえで指導的な役割を担っています。

工学部では、たくさんの仲間とともにモノづくりの楽しさを体感できたのが非常に良かったですね。学部から博士課程を通して、ロボットコンテストに出場。ロボットの製作を通じ、みんなで一つのプロジェクトをやり遂げることの大切さを学びました。前向きでさえあれば、その後全然違う境遇に立ったとしても、無駄な経験は何一つありません。一度描いた目標は忘れないでください。大学では目標を見つけ、「これしかない」と思ったことだけは途中であきらめずにやり抜くことが大事です。

誰かが言った。

「僕たちは洗えばきれいになるけど、猪苗代湖は洗うことができない。

だから、汚しちやいけないんだ。」

僕たちの大切な命の水なのだから。

ロハスな生き方

『社会を動かす力』

——それが土木工学

土木工学科には、衛生工学研究室、水理学研究室、水環境システム研究室、水域環境研究室の4つの水環境研究室があり、人々の暮らしに密接に関わる“水”をテーマにそれぞれ地域の川や湖の研究を行っています。そんな水環境の研究に焦点をあてながら、ロハスな生き方とは何かを考えていきます。

水質No.1から 脱落した猪苗代湖

福島県は、全国でも湖沼面積4位の水大国。猪苗代湖を始め、阿武隈川など多くの水源に恵まれています。特に猪苗代湖は、4年連続水質No.1を誇った清らかな水源として、私たちの生活に命の水を与えてくれました。しかし、2年前、大腸菌群数が環境基準を超えたために、猪苗代湖はランキングの対象外となってしまったのです。県民のみならず、水環境の研究に携わる者たちは皆、ひどくショックを受けました。以後、原因の解明と打開策について、必死の研究が進められています。

健全な水環境に戻すために

本学部を始めとする県内の大学、自治体、企業など産官学が連携して設立した『清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会』。その会長は、日本大学工学部研究員、元教授の中村玄正先生です。「天からもらった水はきれいはず。有機物やその他のものが入るから汚れてしまうのです。」水環境研究協議会のメンバーは、9月11日(木)、猪苗代湖の水質悪化の原因調査を行いました。約100



人が30班に分かれ11隻のボートに乗り、155地点で猪苗代湖と流入河川の水質を一斉調査。衛星データなども含めて水質悪化のメカニズムを多角的に分析する過去最大規模の調査で、来年1月に結果を公表する予定です。猪苗代湖はもともと、自然の浄化作用により、きれいな水質を保っていたのですが、リンや窒素が増えることで、葦などの植物が育ちやすくなり、やがて枯れた葦から発生するリンが大量に湖に流れ出し、水質を悪くしてしまいました。「健全な水環境に戻すことが私たちの使命。」その思いを強く持つ中村先生の活動は、一般市民を巻き込んでの大きな運動へと広がっています。

クリーンアップに 工学部生も参加

水環境研究協議会を中心に、11月1日(土)には、エフエム福島が主催する「クリーン・キャンペーンin猪苗代湖」が行われました。県内外から一般の方200人余り、本学部からは土木工学科・機械工学科の各研究室、3年生併せて約50人が参加。一般の市民と学生たちが協力しながら、猪苗代湖周辺の清掃や事前に刈り取った葦の搬出作業、湖に滞留したゴミの清掃活動を行いました。参加した学生は「自分たちが住む地域のために役に立つことができて良かった！」「疲れたけどきれいになって気持ちがイイ！」などの感想をもらっていました。また、地盤工学研究室から参加した川本弘文さん。「葦が枯れるとデータ的には、土にも悪影響がある。実際自分の目で確かめてみたいと思った。」川本さんは、人が暮らしていくうえで、密接に関わっている土木工学を学ぶことに、やりがいを感じていると言います。



機械工学科の武田信大さんは、背中に太陽光パネルをかついで、発電される電力によって猪苗代湖を泳ぎ回り、かつ、水を浄化するロボットの研究を進めています。「僕たちは洗えばきれいになるけど、猪苗代湖は洗えない。だから汚しちやいけないし、僕たちがきれいにしてあげなくちゃいけないのだと思います。」土木工学だけでなく、さまざまな工学の知恵や技術を活かしながら、工学部では、水環境問題に取り組んでいるのです。



大腸菌群発生源を独自に追究

この日、水域環境研究室では、清掃ボランティア隊以外にもう一つ別の湖を守り隊が動いていました。長年続けている猪苗代湖の水質調査隊です。さまざまな湖の沿岸域や河口域から湖水を採取し、実験室に持ち帰って水質を分析します。人為的なものなのか、自然



発的なものなのか大腸菌群発生の原因はまだよくわかっていません。発生源がわかれば、方策を打ち出すことができます。「犯人捜しをしているのではなく、この状況を知らない一般の人たちにわかってほしいのです。」指導教員の藤田豊先生は言います。下水道の普及率の向上によっては、問題が解決できるかもしれない。ただ、自分たちの研究のためだけでなく、調査・分析を通して、人々の暮らしと、環境を良くするための提案につなげていくことも、土木工学の役割なのです。

水環境を良くする原点とは

10月18日(土)、日差しが暖かな初秋。恒例の徳定川清掃に約50人ほどの学生たちが集結しました。平成12年に、当時、衛生工学研究室内の指導教員だった中村玄正先生と佐藤洋一先生の呼び掛けで始まった、春秋の年2回の徳定川清掃も、今年8年目を迎え、現在は水環境4研究室が清掃活動を行っています。徳定川は、学内を流れる準用河川。当初は学内だけだった活動も、今は上流部から約5キロにわたる周辺地域にも広がっています。「最初はなんで俺達がやらなきゃいけないんだっていう気持ちもあった。だけど、大学にいてもアパートにいても、自分たちが使ったものがこの川に流れていく。徳定川を清掃したり、研究を進めていくうちに、まず、自分の周りを汚さない、きれいにしていくことが、水環境を良くしていく原点だと感じるようになった。」と言う大和泰佑さん。後輩たちも、最初は解せない感じて、胴長を履いて川の中に入り、ビニール袋や空き缶、空き瓶などを回収していました。すると、ゴミ以外の珍住民にも遭遇。「おっドジョウがいた！」「ザリ



ガニ、ザリガニ。」はしゃぐ学生たち。実際に川の中に入ってわかることもあります。川は人間だけのものではなく、生き物たちにも大事な棲み家なのだとのこと。

さて、清掃が終われば、慰労会が待っていました。清掃に参加してくれた衛生工学研究室内の卒業生真田純一さん。「自分の思い出の場所をきれいにすることに喜びを感じますね。」仕事でも水質分析に携わり、研究室での学びが活かされている今、感謝の気持ちを持ちつつ、今後も、こういう関係を大事にしていきたいと話していました。



愛する徳定川を守るために

「実際に自分の目で確かめることが大事なんですよ。」徳定川の水質調査を行っている水理学研究室の高橋迪夫先生は言います。清掃活動を行うことで、データ上には表れない、水の表情を感じとることが研究にも活かされるのです。



11月6日(木)には、24時間連続で水質調査を行いました。人の生活サイクルによって、どう水量や汚濁が変化するかを見るためです。「身近にある川ですから、やっぱり愛着がありますよね。」自分たちと密接に関わっている川のことを大切に思うからこそ、目の前の問題に目をつぶって先には進むことはできないのです。



環境大臣もロハスな 取り組みに期待

11月8日(土)には、斉藤鉄夫環境大臣が福島県を訪れ、環境保全・共生共同研究センターを視察されました。本学部では、出村克宣学部長を始め、水環境システム研究室の長林久夫先生(学術フロンティア推進事業研究プロジェクトリーダー)が同センターの施設・研究内容を紹介するなどして、ロハスな取り組みについて説明しました。斉藤大臣は、「CO₂削減のために必要なことは2つあります。一つは技術。そしてもう一つは生き方です。教育・研究を通してこれらを実践している日本大学工学部は素晴らしいと思います。これからも環境活動の先頭に立って推進してほしいですね。」とロハスな取り組みに対して大きな期待を寄せてくださいました。



澄んだ水と心に響く石(意思)

土木工学は英語で「civil engineering」。「civil」の訳は市民であり、つまり、市民のための研究開発や技術を生み出す学問が、まさに土木工学なのです。「研究者としてだけでなく、一人の人間として、社会のために何かしたい。」

澄んだ水に、一石を投じて、ただ沈んでいくだけで波紋は起きません。澄んだきれいな水なら幾重にも波紋が広がり、大きな輪になっていきます。人間の心も同じ。澄んだきれいな心を持っている人には、きっと伝わっていくはず。小さな石も、人から人へ波紋を投げかけながら、うねりとなり、やがて社会を動かす大きな波となる。自らの手で川や湖をきれいにしようとする活動は、決して無駄ではありません。いつしか地域の人たちの中に、みんなの川や湖をみんなで守る、そんな意識が当たり前になる日が来ることでしょう。自分たちの住む場所を大切に思い、守っていく。それこそがロハスな生き方なのです。

